

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギベと病の防除の徹底について

- 中生・晩生品種はこれからが正念場です。防除の徹底を！ -

本年はタマネギベと病の発生が多く、病害虫発生予察注意報第1号（平成26年4月4日発表）で、発生初期からの薬剤散布と地域ぐるみでの防除対策の徹底を呼びかけているところです。

5月上旬現在、多くの露地栽培（中生・晩生）タマネギ圃場で本病の発生がみられ、一部で多発生圃場が認められています。

さらに、今後、肥大期を迎える中生および晩生タマネギ品種では、本病の多発生が葉数の減少につながり、肥大と品質に大きく影響を及ぼすとともに、貯蔵中の腐敗の原因となります。

については、下記事項を参考にして防除を徹底してください。

記

1. 発生概況

- (1)5月2日に実施した露地栽培（中生・晩生）タマネギの巡回調査では、べと病の平均発生株率は51.1%（平年6.9%、前年13.6%）であり、平年及び前年より多い（図1、表1）。
- (2)本病の発生は4月以降に急増し、5月上旬の発生株率はここ10年で最も多い（図1）。
- (3)発生状況は圃場によって異なるが、94%の圃場で発生がみられる。（表1）
- (4)多くの圃場で、新たに形成された病斑が認められるなど、病勢は依然として衰えていない（写真1、2）。
- (5)病原菌密度が非常に高まっており、今後、さらに中生・晩生タマネギでの発生が増加すると予想される。

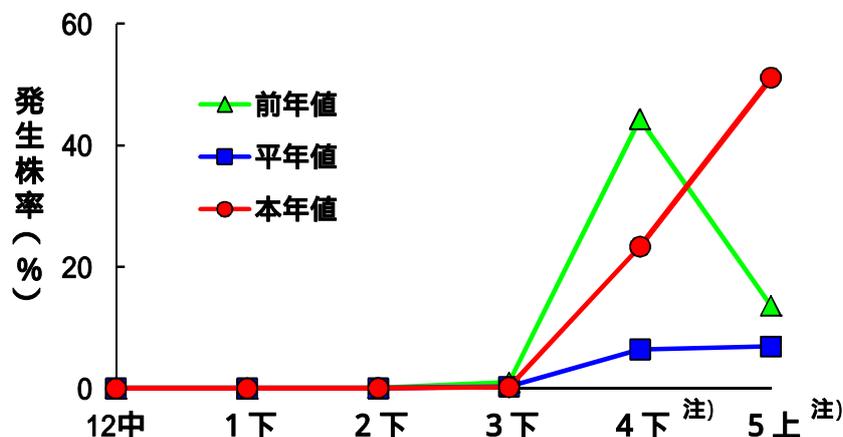


図1 巡回調査におけるタマネギべと病の発生推移
注)4月下旬以降は、露地栽培(中生・晩生品種)を中心に調査

表1 露地栽培タマネギ巡回調査におけるべと病の発生状況

調査年	各調査圃場(a~p)におけるべと病の発生株率(%)																平均発生株率(%)	発生圃場率(%)
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p		
2011年	0	0	2	6	2	16	0	12	0	0	0	68	0	0	0	0	8.5	38
2012年	26	16	24	4	16	26	20	4	26	18	14	16	0	0	10	0	10.5	81
2013年	32	22	28	52	10	0	0	0	0	14	28	18	0	4	6	0	8.8	63
2014年	2	42	80	20	54	64	72	38	66	90	100	58	10	0	30	92	51.1	94

注1) 2011年:5月2日、2012年、2013年:5月7日、2014年:5月2日調査

注2) 調査圃場は年ごとに異なる。調査株数は1圃場あたり50株調査。

2. 防除対策

- (1) 発生状況は圃場毎に異なっているので、必ず、圃場での発生状況を調査し、収穫まで薬剤散布を実施する。
- (2) 薬剤防除に当たっては、タマネギの収穫時期を考慮し、農薬使用基準(収穫前日数等)を遵守する。
- (3) 新たな病斑がみられる圃場(写真2)では、速やかに防除を実施する。
- (4) 薬剤散布は、かけむらがないよう十分な散布量で行う。
- (5) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



写真1 露地栽培タマネギにおけるべと病の発生状況(平成26年4月22日撮影)



写真2 露地栽培タマネギに新たに形成された病斑(平成26年5月2日撮影)
矢印は新たな病斑を示す。